これらの式において、$f_{SFP,i}$、$V_{R,i}$、f_{prim}及び$p_{v,i}$は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$f_{SFP,i}$：全般機械換気設備ｉの比消費電力（単位　１時間につき１立方メートル当たりのワット）

$V_{R,i}$：全般機械換気設備ｉの参照機械換気量（単位　１時間につき立方メートル）

f_{prim}：別表第１に掲げる電気の量１キロワット時を熱量に換算する係数（単位　１キロワット時につきキロジュール）

$p_{v,i}$：局所機械換気設備ｉの消費電力（単位　ワット）

(ハ)　$f_{SFP,i}$は、機械換気設備の種類及び仕様並びに全般機械換気設備の設計風量を勘案して算出するものとする。

(ニ)　$V_{R,i}$は、単位住戸の床面積の合計に、天井高及び全般機械換気設備に求められる換気回数を乗じた数値に余裕率を勘案し、機械換気設備の有効換気量率で除して求められる換気量とする。

二　照明設備の設計一次エネルギー消費量は、次の(イ)から(ニ)までに定める方法により算出するものとする。

(イ)　照明設備の設計一次エネルギー消費量は、次の式により算出するものとする。

$$E_L=\sum_{t}^{n}\sum_{i}^{m}E_{L,t,i}$$

この式において、E_L、$E_{L,t,i}$、ｍ及びｎは、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_L：照明設備の設計一次エネルギー消費量（単位　１年につきメガジュール）

$E_{L,t,i}$：時刻ｔにおける１時間当たりの照明区画（照明器具の種類、照明設備の制御方法及び配置、照度の設定、室等の形状並びに内装仕上げが同一の部分をいう。以下同じ。）ｉに設置される照明設備の設計一次エネルギー消費量（単位　１時間につきメガジュール）

ｍ：単位住戸における照明区画の数

ｎ：照明区画ｉにおける年間点灯時間（単位　時間）

(ロ)　$E_{L,t,i}$は、次の式により算出するものとする。

$$E_{L,t,i}=P_i\times C_i\times f_{prim}\times 10^{-6}\times r_{i,d,t}$$

この式において、P_i、C_i、f_{prim}及び$r_{i,d,t}$は、それぞれ次の数値を表すものとする。

P_i：照明区画ｉに設置される照明設備の消費電力の合計値（単位　ワット）

C_i：照明区画ｉに設置される照明設備の消費電力の補正値

f_{prim}：別表第１に掲げる電気の量１キロワット時を熱量に換算する係数（単位　１キロワット時につきキロジュール）

$r_{i,d,t}$：時刻ｔにおける照明区画ｉに設置される照明設備の使用時間率

(ハ)　P_iは、照明設備の種類及び仕様並びに照明区画ｉの床面積を勘案して算出するものとする。

(ニ)　C_iは、照明設備の設置状況及び用途、調光、人感センサー並びに多灯分散照明方式の採用の有無を勘案して算出するものとする。

ホ　給湯設備の設計一次エネルギー消費量は、次の(イ)から(ホ)までに定める方法により算出するものとする。

(イ)　給湯設備の設計一次エネルギー消費量は、次の式により算出するものとする。

$$E_W=\sum_{d}^{D}E_{W,d}$$

この式において、E_W、$E_{W,d}$及びＤは、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_W：給湯設備（排熱利用設備を含む。）の設計一次エネルギー消費量（単位　１年につきメガジュール）

$E_{W,d}$：日付ｄにおける１日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費量（単位　１日につきメガジュール）

Ｄ：給湯設備の年間稼働日数（単位　日）

(ロ)　$E_{W,d}$は、給湯設備の種類及び仕様、外気温湿度、給水温度並びに給湯負荷を勘案して算出するものとし、日付ｄにおける１日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費係数を用いて算出する場合においては、次の式により算出するものとする。

$$E_{W,d}=C_{W,d}\times L_{W,d}$$

この式において、$C_{W,d}$及び$L_{W,d}$は、それぞれ次の数値を表すものとする。

$C_{W,d}$：日付ｄにおける１日当たりの給湯設備の設計一次エネルギー消費係数

$L_{W,d}$：日付ｄにおける１日当たりの給湯負荷（単位　１日につきメガジュール）

(ハ)　$C_{W,d}$は、給湯設備の種類及び仕様、外気温湿度、給水温度並びに給湯負荷を勘案して算出するものとする。

(ニ)　$L_{W,d}$は、単位住戸の床面積、給湯対象室の有無、外気温湿度、給水温度、節湯器具の仕様及び給湯配管の仕様を勘案して算出するものとし、太陽熱利用設備を利用する場合においては太陽熱利用設備の種類、仕様、直達日射量及び天空放射量を勘案して算出するものとする。

(ホ)　エネルギーの量を熱量に換算する係数は、別表第１に掲げる数値を用いるものとする。

ヘ　エネルギー利用効率化設備による設計一次エネルギー消費量の削減量は、次の(イ)及び(ロ)に定める方法により算出するものとする。

(イ)　エネルギー利用効率化設備による設計一次エネルギー消費量の削減量は、次の式により算出するものとする。

$$E_S=\sum_{t}^{n}\sum_{i}^{m}E_{E,s,t,i}\times f_{prim}\times 10^{-3}$$

この式において、E_S、$E_{E,s,t,i}$、ｍ、ｎ及びf_{prim}は、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_S：エネルギー利用効率化設備による設計一次エネルギー消費量の削減量（単位　１年につきメガジュール）

$E_{E,s,t,i}$：時刻ｔにおける１時間当たりのエネルギー利用効率化設備ｉによる消費電力量の削減量（単位　１時間につきキロワット時）

ｍ：単位住戸におけるエネルギー利用効率化設備の数

ｎ：エネルギー利用効率化設備ｉの年間稼働時間（単位　時間）

f_{prim}：別表第１に掲げる電気の量１キロワット時を熱量に換算する係数（単位　１キロワット時につきキロジュール）

(ロ)　$E_{E,s,t,i}$は、気象条件並びに設備の性能及び設置状況を勘案して算出するものとする。

ト　その他一次エネルギー消費量は、次の式により算出するものとする。

$$E_M=\alpha_M\times A_{total}+\beta_M$$

この式において、E_M、α_M、A_{total}及びβ_Mは、それぞれ次の数値を表すものとする。

E_M：その他一次エネルギー消費量（単位　１年につきメガジュール）

α_M：単位住戸の床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数（単位　１平方メートル１年につきメガジュール）

A_{total}：単位住戸の床面積の合計（単位　平方メートル）

β_M：単位住戸の床面積の合計の区分ごとに次の表に掲げる係数（単位　１年につきメガジュール）